

《何故日本においては、上記「自己欺瞞（擦り替へ）」の問題を含め「一元論的絶対主義」が出現するか》

・・・恆存は「近代國家の未成立」にその原因を指摘し、以下の様に彼我の差を論ずるのである。

以下項は新漢語に對する「概念の喰ひ違ひ」に至った経路を示す。	西歐 (「甲圖：テキスト P8」)	日本（近代化適應異常＝新漢語への距離感缺如） (「乙圖：テキスト P9」)
「近代化」の差異・・・ (参照：拙論《此處が解りにくい福田恆存》P 9) 〈その爲にどうなるか〉 ↓	「近代を過去のアンチテーゼとして成立せしめる歴史的一貫性」。	西歐の模倣＝日本は西歐の「科学製品は輸入できても（左項の）科学精神は移植できなかつた」（『近代日本文学の系譜』）。
近代化によつて齎された觀念・概念の彼我の差。 「甲圖：テキスト P8」と「乙圖：テキスト P9」との違い。 〈その爲にどうなるか〉 ↓	甲圖：西歐は近代化（近代國家・近代精神）を「神の棲む國」・「神に型どれる人間の概念の探求」と言ふ形で統一していつたのである。（参照：『現代人の救ひといふこと』）	乙圖：西欧近代の各種概念や觀念（言葉）の「自己所有化」が日本は出来なかつたのである。 新漢語に對する距離感の缺如。・・・それは何故か。「言葉との距離測定」が出来ないのは、「それが身につく土壤が日本に欠けてゐるから」
「甲圖：テキスト P8」＝近代國家と、 「乙圖：テキスト P9」＝非近代國家との違い。 〈その爲にどうなるか〉 ↓	甲圖：近代國家 實證精神により「九十九匹（A）」上に客體化。 ＊「二つ（個人的・國家的）のエゴイズム（A上）が互ひに抗爭し、更にその背景で両者が宗教的良心（BC）と抗爭するといふ試煉の下で近代國家は成長して行つた」（P 3 2 8）→甲圖	乙圖：非近代國家では、甲圖の近代的觀念・概念が日本人の物として客體化（「九十九匹（A）」化）されず、自己欺瞞・自己保存の「護符・後楯」として權威化する。 「階級のエゴイズムの後楯化」→C 2 化。（日本人の精神主義的構圖の特質）
「平和」とは：	「戦争の缺如状態」＝消極的概念	「平和」の積極的概念或いは絶対的価値化。・・・人情の自然（A：本

		能・エゴイズム・集団的自我)の絶対価値化。即ち「生命第一主義」→「絶対平和主義」。(「平和」は「生命保存本能」の代用語：参照P 1 2 6 全五) * 新漢語＝自己欺瞞・自己保存(エゴイズムの「護符・後楯」化。(C 2 化) * 西欧的二元論(甲圖)不在による、「一元論的絶対主義への転化(乙圖)＝相対主義の泥沼？」
--	--	---